

クラゲンフルト大学文化学部言語学・コンピュータ言語学科

Universität Klagenfurt, Institut für Sprachwissenschaft und Computerlinguistik
University Klagenfurt, Department of Linguistics and Computer Linguistics

元クラゲンフルト大学

鈴木 伸一

94年夏学期より言語学科の自由選択科目として開講されているクラゲンフルト大学の日本語コースは、98/99年冬学期まで鈴木が担当してきたが¹⁾、講師の帰国に伴い、今年の夏学期より岩田正之に代わることになった。ただし、3月いっぱい引継ぎも兼ねて二人体制で臨み、イースター休暇以降に完全に交代した。99年夏学期は上記のような事情もあったため、再び「初心者コース」を開設。参加者数については、最初の1ヶ月弱は20人程度の出席があったが、イースター休暇を挟んで(例年のように)急減し、最終的には毎週来るのが3人²⁾、あとは2、3週の間隔で顔を出すのが数人いる。前年度の報告でも述べた「非常勤が持つ授業の場合、参加者が10人に満たないコースは成立しない」という大学の規定はそのままだが、とりあえず「書類上での」参加者を集めることで、来学期以降も開講にこぎつけることが出来ると思う。学習者の「興味・関心」の多様化傾向は今回も顕著で、映画やアニメから食文化・伝統文化等のいわゆる「日本事情」を挙げる学生が多い。ただし、週1回2時間の授業の中で、語学の授業と平行してこれらをカバーしていくのには、どうしても困難が付きまとう。また、実際の「練習」以外は、基本的にドイツ語ベースでの授業となるが、新講師が着任して間も無いこともあって、「学生の喋る方言が理解できない時がある」といった問題が生じている。

1) 但し、95/96年冬学期は休講。

2) 内訳は、経営学、英文英語学、社会人各1名。

使用教材

今までは自作テキストを使用し、1週間1単元の割合でコピーを配布、それに沿って授業を行っていたが、上記のように4月から講師が代わったため、新講師の負担軽減を考えて『Japanisch im Sauseschritt I』(Dr. Hammes Doitsu Gakuin Ltd. 第1版。東京、1995年。『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』の独語版)にテキストを変更した。但し、文法説明等においてこれだけでは不十分なので、『日本語集中講座 JAPANISCH INTENSIV I, II』(Detlef Fojanty/Hiroomi Fukuzawa: Helmut Buske Verlag, Hamburg)等も補助的に使用している。

カリキュラム・授業法

週1コマ2時間というのは変わっていない。夏学期は上記テキストの第5課までと、基本的な数詞・形容詞を終えた。また、重要な句型や骨格となる文章については随時復習し、その際に実物で提示できるものは見せながら練習を行った。表記に関しては、まずカタカナを扱い、週に1行(ア行、カ行、サ行等)ずつ、日本語の単語と関連させながら学習していった。